

令和 2 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号		3 7	学校名		県立鉾田第一高等学校			課程		全日制課程		学校長名		飯山 美都子				
教頭名		田崎 泰昭										事務室長名		和田 靖				
教職員数	教諭	5 5	養護	1	常勤	4	非常勤講師	3	実習教諭 実習講師 実習助手	1	事務職員	4	学校用務員	3	ALT	1	合計	7 5
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計				合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男		女					
	普通科		114	114	132	144	127	150			373		408					

2 目指す生徒像

高い知性，たくましい気力，礼節を重んじる人間性を備えた生徒 グローバルな視点と行動力を持った生徒

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
進路指導	・約 9 割の生徒が大学進学を希望しているが，目的意識が希薄なまま安易に進路選択をしている生徒も見受けられる。 ・安全志向が強く，推薦・AO 入試で早めに進路先を決めようとする傾向が見られた。その結果，国公立大学合格者数は現役56名で昨年より29名減少した。 ・私立大学については，現役合格者数327名で昨年より18名増加した。県内私立大学への進学者数，都内難関私立大学への合格者数ともに増加した。	・自己の将来の在り方生き方を含めた進路意識の高揚を図り，多様な進路希望に対できるよう単位制の利点を活かしたきめ細かい指導を行う必要がある。 ・大学入学共通テストについての情報収集を行い，思考力を高める指導を通して，得点力のアップを図るとともに，国公立二次試験や私立個別試験に向けた指導を充実させる。 ・最後まで第一志望を諦めず，目的意識を持った進路決定が出来るよう支援する。 ・様々な入試方式に対応するため，小論文指導や面接指導の充実を図る。
学習指導	・進路実現のため，早期からの受験準備等体制づくりが多くの子供にとって必要である。 ・「平日の家庭学習時間 学年＋1 時間」という目標に関しては，1・2 年次生とも増加している。土日・祝日の学習時間は宿題や課題を行う時間も含めて平日より多くなっている。部活動加入率が高いことも鑑み，学校風土である“文武不岐”のための指導も不可欠である。	・授業時間を確保すること，良質な授業提供のための組織的な研修等を充実させること，自発的な家庭学習を充実させる指導を行うことなど，学力向上のためのさらなる工夫が必要である。 ・具体的なアドバイスや，手に届きやすい目標設定や提示など必要である。
特別活動	・生徒会活動など，生徒主体の特別活動が活性化してきている。 ・8 割に近い生徒が部・同好会に加入しており，運動部，文化部ともに県大会，関東大会，全国大会への出場等を目指して活動している。	・学校行事への主体的参加やHR・生徒会・委員会への自主的な取り組みを育み，グローバル社会に適応できるコミュニケーション能力や社会性の育成が必要である。 ・限られた部活動時間での指導法の工夫が必要である。
生徒指導	・素直で真面目な生徒が多い。しかし，大きな問題行動等は起こさないが，制服の細やかな着こなしやスマートフォンの利用状況など，ルールやマナーを守れない生徒も見られる。 ・家庭環境や心の問題等でケアが必要な生徒も見られる。	・生徒に問題行動やリスクマネジメントの啓発，指導を継続的に行う必要がある。 ・全職員で共通理解のもと統一した指導の徹底を図る必要がある。 ・内面的な指導が必要な生徒に，各部署と連携した指導体制を整える必要がある。
開かれた学校	・ホームページやフェイスブックで常時最新の情報発信を行っている。 ・スクールガイド等の作成やオープンキャンパス，学校公開授業を通じての広報活動を行っている。	・学校評議員制度の活用やホームページ，アンケートなどの広報広聴活動を工夫し，家庭・地域社会との連携を目指した，より効果的な活動が必要である。
働き方改革	・各分掌における業務内容が多様化している。	・効率的な学校運営。

4 中期的目標

○生徒の自己実現を図るために、確かな学力を身につけさせ、そのためのカリキュラムマネジメントの充実を図る。
・進路の実現を図るための確かな学力を身につけさせるとともに、学習指導や進路指導の改善や単位制高校としてのカリキュラムの検証を図り、生徒の多様な希望に応える指導体制を充実させる。
・自己の将来の在り方生き方、高校や大学で学ぶ意義や目的など進路意識を高めるための取り組みをより一層推進する。
・学校行事や部活動・特別活動を活性化し、それらを通じて自主性や豊かな人間性を育み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成していく。
・広報活動の充実や学校評議員制度の活用など家庭・地域社会との連携を図り、保護者・地域社会の期待に応える学校づくりを進める。
・働き方改革により、各分掌の業務を精選し、効率的に学校運営を進める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力・授業の質の一層の向上	・「課題テスト」の年間30回実施を継続し、基礎学力を定着させる。 ・入学当初の「授業ガイダンス」や「自学自習週間」を通して学習習慣を身につけさせ、シラバス利用や学習法の具体的な指導を継続し、平日の最低学習時間＝学年＋1時間を目指す。 ・基礎基本を定着させるとともに、発展的学習や学校設定科目の内容を充実させる。 ・授業力向上のため、教員間の授業観察と校内授業研修を推進し、職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ・指導力向上のため、職員が外部講習等に積極的に参加する。
個に対応した指導の充実	・習熟度別授業の指導方法、指導内容を充実させる。 ・少人数授業の効果を高めるために担当者間の連携や、授業方法の創意工夫を積極的に行う。 ・特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を通して指導スキルの向上を図る。
進路意識・進路実績の一層の向上	・「山王プロジェクト」を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や進路目標達成につなげる。 ・各年次の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し、収集した正確な情報を進路指導に活用する。 ・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。
特別活動・部活動の一層の活性化	・学校行事への積極的参加を促し、HR・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部活動においては、県大会以上の大会に出場できる部や生徒数を増やす。 ・学校行事後に感想をまとめたりキャリアパスポートを利用したりすることにより、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。
マナーや規範意識の向上	・全職員が共通理解を持って指導にあたり、生徒が率先してルールやマナーを順守できる態度を育てる。 ・全体的な取り組みと合わせて、生徒個々に対応した指導を図る。
学校評価の推進	・自己評価、外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ・ホームページやアンケート等の広報広聴活動をさらに工夫し、充実させ、学校を活性化させる。
働き方改革	・役割を適切に配し、効率的な計画・準備を実施する。 ・業務を進める際には、終了時刻を明確にし、業務改革を推進する。